

ウチナーグチー
を記録すること

現在、町史では『西原の言語』を編集中です。西原の旧集落一五地点を中心に、諸先輩方から各集落の方言をうかがっています。

例えばトンボを、アーケ
ーシュー（桃園・幸地・安
室・小波津）、チンターマ
ー（我謝）、ティンターマ
ー（棚原・小那覇・翁長）、
ミンス（小橋川）、ソーデ
イー（翁長）、マーティ
ー（呉屋）と呼んでおり、ト
ンボひとつとってみても様々
な呼び名があります。



ショウジョウトンボ

また、方言は独特な表現
をもちあわせています。

「古くからの沖繩の言葉に
は、”かわいそう”といっ
た同情的な表現はない。沖

縄では他人の苦しみにたい
して、それを分かち合うニ
ュアンスをもつ”肝苦りさ
（胸が痛い）”という表現を
つかう。沖繩には”他人に
殺さってん寝んだりしが、
他人殺ちえん寝んだらん”

（他人にいたためつけられて
も寝ることはできるが、他
人を痛めつけては寝ること
はできない）という言伝え
がある。」（注①）このよ
うな表現や言伝えは、日本
語で表現することは難しく、
やはり沖繩の人々の気持ち
を表現するには、沖繩のこ
とばが一番なのかもしれま
せん。

西原の方言をはじめ、沖
縄で話されている方言全体
は衰退の一途をたどってい
ます。

「言語学者のベンジャミ
ン・リー・ウオーフは、わ
れわれのものの方・考え
方は、われわれが話す言語
の構造によって決定される
という仮説を唱えた。異な
る構造を持った言語を話す
人は、異なる仕方で自然お
よび社会的現象を分類し、
概念化するという。」（注
②）ウオーフの説からする
と、西原の方言をはじめ、
沖繩の方言が消滅するとい
うことは、方言の美しい響

きがなくなるといっただけ
はなく、沖繩らしいもの
の考え方や世界観も失われて
いくということになります。
方言のもっている美しい
響きや独特な表現方法や言
伝えなど、ことば（≡文化）
を記述・記録することの重
要性を考えさせられる今日
この頃です。

今後とも西原人のことば
をひとつでも多く記録でき
るよう頑張りますので、町
民みなさまのご協力、よろ
しくお願いします。



参考文献

（注①）大田昌秀『沖繩の
ことば』六〜七
ページ

（注②）東江平之『沖繩人
の意識構造』三〇
四ページ